

検討の視点について

1 新たな時代の変化への対応について

- (1) 社会環境の変化により、地域における住民同士のつながりの希薄化が加速し、コミュニティ活動を負担に感じる人が増えており、特に若い世代は必要性を感じていない傾向にある。
- (2) コミュニティがやるべきこと、行政がやるべきことを明確にし、コミュニティ活動に不可欠なものは何かを考え直し、コミュニティの重要性を示していく必要がある。
- (3) これまでの活動の活性化ではなく、今後コミュニティに求められる役割、目指すことなどを明確にし、地域力の向上につなげていく。

2 自治会・町内会等を中心とした住民自治活動の維持・継続について

- (1) 住民自治活動とは何をイメージしているのかをはっきりさせ、コミュニティが自治会・町内会を支援できるよう、情報を共有するなど協働して地域課題解決ができる環境を整え、地域全体で支え合う仕組みを構築する。
- (2) 自治会・町内会等の加入の有無で、不公平感が生じないような策が必要である。

3 多様な主体との連携や新たな地域の交流促進について

- (1) 多様な活動団体と、互いに得意分野で持てる力を出し合い、連携・協働できれば幅広いまちづくりができる。各地域の抱える課題の把握をはじめ、まちづくりの楽しさや、人と人との交流の大切さを住民に理解してもらうことに努めなければならない。
- (2) 幼稚園や保育園、学校を絡めて幼い頃から地域との関わりの機会を増やし、コミュニティ活動への関心を高めることにより、地域の交流へとつなげていく必要がある。

4 コミュニティ活動に対する参加意欲の維持・向上について

- (1) コミュニティ活動を知らない人や、必要性を感じていない人も多いと思われることから、取組内容を明確にするなど、コミュニティ活動を容易に理できるようにし、その重要性を知らせていくことから考え直さなければならない。

- (2) コミュニティは、頼れるような相談相手になることが重要であり、誰かの助けが必要になったとき、身内でなくても助け合う人・組織があることを理解してもらえるようにしておく必要がある。

5 住民全員が当事者であるという意識の醸成、誰もが参加しやすい新たな環境の整備について

- (1) コミュニティ活動の有意性を明確にし、参加することで日立市のよりよい発展に貢献できることを理解してもらう。
- (2) これまでのような住民総参加型だけでなく、自らが必要とする活動を選択して参加できる機会も設け、結果的に住民みんなが参加しているという形をつくることが重要である。

6 行政職員の意識や、市との協働推進・連携の在り方について

- (1) コミュニティ活動の課題解決のために、目指す目的地点を設定するなど、取り組みやすい協働方法を提案し、解決に向けてコミュニティと行政との協働の在り方を見直すことが必要である。
- (2) 市職員としてではなく、地域の一員という意識で、愛着を持って積極的に参画することが重要である。
- (3) コミュニティ活動体験に参加した若手職員がその後も参加し続けるケースが増えていないところにも目を向けなければならない。

7 若者の意見の把握や活躍できる環境の整備について

- (1) 若者の地域のつながりに対する関心は希薄化しており、若者にとってコミュニティ活動はシニア世代が中心という印象が強い。若者が活躍できる場の提供など、環境の整備を図ることが必要である。
- (2) 若者の求める地域活動と、現在のコミュニティ活動にはズレがあり、若者が参画しやすくするには、地域も変わっていくことが必要である。
- (3) ポイント制の導入や SNS の活用、目に留まりやすいチラシ・ポスター等の作成など、きっかけづくりや情報提供の方法を工夫しながら、地域愛を育んでいくことが必要である。

以 上